

法令及び定款に基づく インターネット開示事項

連結株主資本等変動計算書
連結注記表
株主資本等変動計算書
個別注記表

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

アイサンテクノロジー株式会社

上記の事項につきましては、法令及び当社定款第13条の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより株主の皆様へ提供しております。

連結株主資本等変動計算書

(2020年4月1日から
2021年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資 本 剰 余 金	利 益 剰 余 金	自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
当 期 首 残 高	1,917,294	2,305,256	1,500,036	△13	5,722,573
連結会計年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当			△99,768		△99,768
自 己 株 式 の 取 得				△138	△138
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			181,848		181,848
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	82,079	△138	81,940
当 期 末 残 高	1,917,294	2,305,256	1,582,116	△152	5,804,514

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額		純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当 期 首 残 高	6,298	6,298	5,728,872
連結会計年度中の変動額			
剰 余 金 の 配 当			△99,768
自 己 株 式 の 取 得			△138
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			181,848
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△5,645	△5,645	△5,645
連結会計年度中の変動額合計	△5,645	△5,645	76,294
当 期 末 残 高	652	652	5,805,166

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

- | | |
|-----------|-------------------------|
| ・連結子会社の数 | 2社 |
| ・連結子会社の名称 | エーティーラボ株式会社
株式会社スリード |

(2) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

(3) 会計方針に関する事項

① 資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

- | | |
|----------|---|
| ・時価のあるもの | 連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
|----------|---|

- | | |
|----------|-------------|
| ・時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
|----------|-------------|

ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- | | |
|--------|-------------------------------|
| ・商品、製品 | 総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法） |
| ・仕掛品 | 個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法） |

② 固定資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

- | | |
|---------|-------|
| 建物及び構築物 | 8～43年 |
| 工具器具備品 | 3～15年 |

ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

・市場販売目的のソフトウェア 見込販売数量等に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。

なお、当初における見込販売有効期間は、3年としております。

・自社利用のソフトウェア 社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

・その他の無形固定資産 定額法を採用しております。

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

④ その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

イ. 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

(i) 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事 工事進行基準（工事の進捗率の見積は原価比例法）

(ii) その他の工事 工事完成基準

ロ. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

ハ. 退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度の末日における退職給付債務の見込額に基づき当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度から適用し、連結注記表に（会計上の見積りに関する注記）を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(工事進行基準による収益認識)

(1) 当連結会計年度計上額 217,982千円

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

工事進行基準の適用にあたっては、当連結会計年度末までに発生した実際工事原価の工事原価総額に対する割合により算出した進捗率により、売上高を計上しております。そのため、工事原価総額の見積りが重要となります。

工事原価総額は、作業に必要となる人員や作業完了までの工程等を基にした社内工数原価と外注費により見積もっておりますが、天災等による事業環境や現場状況の変化等の様々な要因により、見積もりの前提条件に大きく変更が生じることがあります。その結果、翌連結会計年度に係る連結計算書類において認識する金額にも重要な影響を与える可能性があります。

4. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 409,095千円

(2) コミットメントライン契約

当社グループは、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結し、機動的かつ安定的な資金調達手段を確保し、財務基盤の安定化に努めております。

当連結会計年度末におけるこの契約に基づく借入未実行残高等は次の通りであります。

コミットメントラインの総額	2,000,000千円
借入実行残高	-
差引額	2,000,000千円

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数
普通株式	5,542千株	一千株	一千株	5,542千株

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額等

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効力発生日
2020年6月23日 定時株主総会	普通株式	99,768	18	2020年3月31日	2020年6月24日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌期になるもの

2021年6月22日開催の第51期定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・配当金の総額 72,054千円
- ・1株当たり配当額 13円
- ・基準日 2021年3月31日
- ・効力発生日 2021年6月23日

(3) 当連結会計年度末日における新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入及び増資）を調達しております。一時的な余資は主に安全性の高い金融資産で運用し、また運転資金は銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、業務上関係する企業の株式等であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。またファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済日は決算日後、最長で5年以内であります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

- ・信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは営業債権について、各事業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手毎に期日及び残高を管理するとともに主な取引先の信用状況を1年毎に把握する体制であります。

- ・市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、上場株式は四半期毎に時価の把握を行い、非上場株式については発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

- ・資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは各部署からの報告に基づき、経営管理本部にて毎月資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動する場合があります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2021年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。（「(注)2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品」を参照ください。）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千 円)	差 額 (千 円)
(1) 現金及び預金	4,213,646	4,213,646	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,033,634	1,033,634	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	6,300	6,300	—
資産計	5,253,580	5,253,580	—
(1) 支払手形及び買掛金	416,244	416,244	—
(2) 未払法人税等	4,565	4,565	—
(3) リース債務 (1年内返済予定を含む)	181,786	180,637	△1,149
負債計	602,597	601,448	△1,149

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	617,136

これらについては市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

7. 賃貸等不動産に関する注記

当社グループでは、愛知県において、オフィスビル（土地を含む）を所有しております。2021年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は5,346千円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

連結貸借対照表計上額 (千円)			当連結会計年度末の時価
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
63,889	3,573	67,463	101,717

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
2. 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む）であります。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,047円36銭
(2) 1株当たり当期純利益	32円81銭

9. 重要な後発事象に関する注記

(組織体制の見直し)

当社は、2021年5月14日開催の取締役会において、組織体制の変更について決議いたしました。従来のソリューション別の管理手法から、ターゲット市場ごとの体制に変更をすることで、適切な意思決定を行うことを目的としております。

(株式取得による子会社化に関する株式譲渡契約締結)

当社は、2021年5月14日開催の取締役会において、株式会社三和(以下、「三和」)の株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日に株式譲渡契約を締結いたしました。

(1) 株式の取得の理由

三和の営業力、技術力等の経営資源を活用することにより、既存顧客の深耕や各方面での新規顧客の拡大が期待できます。併せて、当社では、三和の測量分野における知見と技術及びノウハウを人材教育へ活かすことはもとより、開発する製品やサービスに反映することで、よりお客様のニーズに沿ったモノづくりに貢献するものと考えております。三次元計測請負、高精度三次元地図整備請負の業務受託においては、当社と三和の両社のシステムや技術情報を有効に活用することで、品質の高い製品をお客様へ提供することが可能となるほか、売上原価の低減にも繋がるシナジー効果が期待されることから、高精度位置情報基盤の技術開発と追求を進め、業容拡大と経営基盤の強化を目指してまいります。

(2) 被取得企業の名称、事業の内容及び規模

① 被取得企業の名称 株式会社三和

② 事業の内容

- イ. 土地、河川ならびに海洋に関する各種測量
- ロ. 土地、河川、海洋ならびに家屋、樹木に関する各種調査および設計
- ハ. MMS (モービルマッピングシステム) による三次元計測
- ニ. システム・ソフト開発、データ処理、地図調製
- ホ. 前各号に付帯する一切の業務AV機器およびシステムの販売・設置工事

③ 資本金の額 12百万円

(3) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

① 取得する株式の数 24,000株

② 取得価額 株主が個人であり、守秘義務契約を締結していることから、非公表とさせていただきますが、外部機関が実施した、財務・税務・法務に係る適切なデューデリジェンスを実施の上、公正な方法で算出した合理的な金額にて取得を予定しております。

③ 取得後の持分比率 100%

(4) 株式取得の時期

2021年10月1日（予定）

(5) 支払資金の調達方法

自己資金

(6) 今後の見通し

本件株式取得により、三和は2022年3月期第3四半期に当社連結子会社になる見通しであります。

10. その他の注記

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響は不確定要素が多く、一定期間継続し翌連結会計年度の業績に影響を及ぼす可能性があるものの、現時点において会計上の見積りに重要な影響を与えるものではないと判断しております。

当社グループでは、「社員とその家族、お客様、取引先様が感染しないように取り組むとともに、会社を感染源としない。」を基本方針とし、テレワークの継続、時差出勤など実施し、通勤途中ならびに事業場内の密を避けるなど予防や拡大防止に対して適切な管理体制を構築することで、当社グループの財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に与える影響を可能な限り抑制する取り組みを実施してまいります。

株主資本等変動計算書

(2020年4月1日から
2021年3月31日まで)

(単位：千円)

	株主資本			
	資 本 金	資本剰余金		
		資 本 準 備 金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計
当 期 首 残 高	1,917,294	1,954,944	339,270	2,294,214
事業年度中の変動額				
剰 余 金 の 配 当				
当 期 純 利 益				
自 己 株 式 の 取 得				
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)				
事業年度中の変動額合計	－	－	－	－
当 期 末 残 高	1,917,294	1,954,944	339,270	2,294,214

	株主資本				
	利益剰余金			自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金合計		
繰越利益 剰余金					
当 期 首 残 高	25,200	1,322,154	1,347,354	△13	5,558,849
事業年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当		△99,768	△99,768		△99,768
当 期 純 利 益		165,164	165,164		165,164
自 己 株 式 の 取 得				△138	△138
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)					
事業年度中の変動額合計	－	65,395	65,395	△138	65,256
当 期 末 残 高	25,200	1,387,550	1,412,750	△152	5,624,106

(単位：千円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当 期 首 残 高	6,298	6,298	5,565,147
事 業 年 度 中 の 変 動 額			
剰 余 金 の 配 当			△99,768
当 期 純 利 益			165,164
自 己 株 式 の 取 得			△138
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)	△5,645	△5,645	△5,645
事 業 年 度 中 の 変 動 額 合 計	△5,645	△5,645	59,610
当 期 末 残 高	652	652	5,624,758

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

イ. 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

ロ. その他有価証券

・時価のあるもの

事業年度の末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

・時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

・商品、製品

総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

・仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 8～43年

構築物 15～20年

工具器具備品 3～15年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

・市場販売目的のソフトウェア

見込販売数量等に基づく償却額と、残存見込販売有効期間に基づく均等償却額との、いずれか大きい金額を計上しております。

なお、当初における見込販売有効期間は、3年としております。

・自社利用のソフトウェア

社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

・その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度の末日における退職給付債務の見込額に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上イ) 当事業年度末までの進捗部分について成果の确实基準

性が認められる工事

工事進行基準

(工事の進捗率の見積は原価比例法)

ロ) その他の工事

工事完成基準

(5) その他計算書類作成のための基本となる事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

2. 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度から適用し、個別注記表に(会計上の見積りに関する注記)を記載しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(工事進行基準による収益認識)

(1) 当事業年度計上額 217,982千円

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

連結注記表の「会計上の見積りに関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 371,864千円

(2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権 11,383千円

短期金銭債務 26,470千円

(3) コミットメントライン契約

当社は、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結し、機動的かつ安定的な資金調達手段を確保し、財務基盤の安定化に努めております。

当連結会計年度末におけるこの契約に基づく借入未実行残高等は次の通りであります。

コミットメントラインの総額 2,000,000千円

借入実行残高 -

差引額 2,000,000千円

5. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

営業取引取引高 438,844千円

売上高 42,199千円

売上原価 269,385千円

販売費及び一般管理費 127,260千円

営業取引以外の取引高 21,206千円

(2) 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費 256,164千円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	0千株	0千株	-千株	0千株

7. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生主な原因は、賞与引当金、未払事業税、未払費用、退職給付引当金などであり、繰延税金負債の発生主な原因はその他有価証券評価差額金であります。

8. 関連当事者との取引に関する注記

重要性がないため、記載を省略しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,014円81銭
(2) 1株当たり当期純利益	29円80銭

10. 重要な後発事象に関する注記

連結注記表の「重要な後発事項に関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

11. その他の注記

(追加情報)

連結注記表の「その他の注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。